

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大里南 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

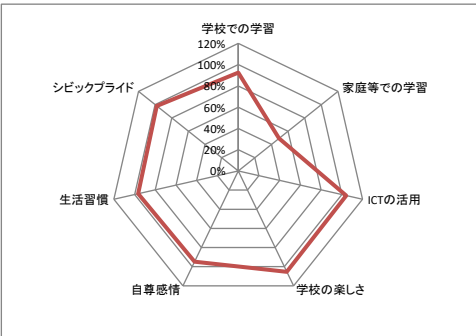
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回った。知識・技能を問う問題（情報の扱い方に関する事項）の正答率については、全国平均相当だった。しかし、思考力・判断力・表現力（話すこと・聞くこと）の正答率は、特に大きく下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することを問う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	主語と述語の関係をとらえる問題や物語の全体像を想像する問題の正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回った。特に、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率は全国平均を下回った。問題形式では、記述式の問題が全国平均を大きく下回っていた。また、無回答率も大きい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	除数が少数の除法計算を問う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	球と立体の辺の長さの関係を捉え、立体の体積の求め方を式に表すことを問う問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「学校に行くのは楽しいか」と「友達関係に満足しているか」の問いに対して90%以上の児童生徒が肯定的に回答している。 ・月1回実施している生活アンケートおよび個人面談やコミュニケーション能力を高め、5つの心（素直・我慢・思いやり・感謝・学び）を育てる授業づくり等の取組が効果的だったと考えられる。今後も学校全体で児童の実態把握に努めるとともに、授業改善や心の育成を進める必要がある。 ・「家庭学習」について課題が見られた。家庭学習チャレンジ週間や自主学習チャレンジ週間の取組を通して、家庭学習の習慣が身に付けるとともに、学年×10分の学習に取り組むことができるようにしていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・国語科、算数科ともに、全国平均をして下回った。 ・教科担任制や一部教科担任制を生かした専門性の高い授業づくりの推進を継続していくとともに、校内研修を通して授業研究を進めていく。 ・ICT機器の活用頻度については全国平均相当だったが、活用内容については課題が見られた。今後も改善することができるよう職員研修を継続していく必要がある。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭等での学習については、学年に応じた内容や分量の宿題を出すとともに、家庭学習チャレンジ週間に学期に1度の頻度で設定し、学校だよりや学年だより等でその取組を啓発していく。また、児童に対しては、自主学習チャレンジ週間（自主学習の仕方を指導するための時間を設定）を行い、どのように家庭学習に取り組むとよいか指導していく。 ・地域行事等の周知を図るとともに、地域行事へのクラブ活動参加や地域の人材をゲストティーチャーとして招くこと、地域に根付いたお店や企業との交流などの取組を促進していく。
--